

H27-B-3 深度28.12~28.14m 全景写真の記載 (No.112) を修正

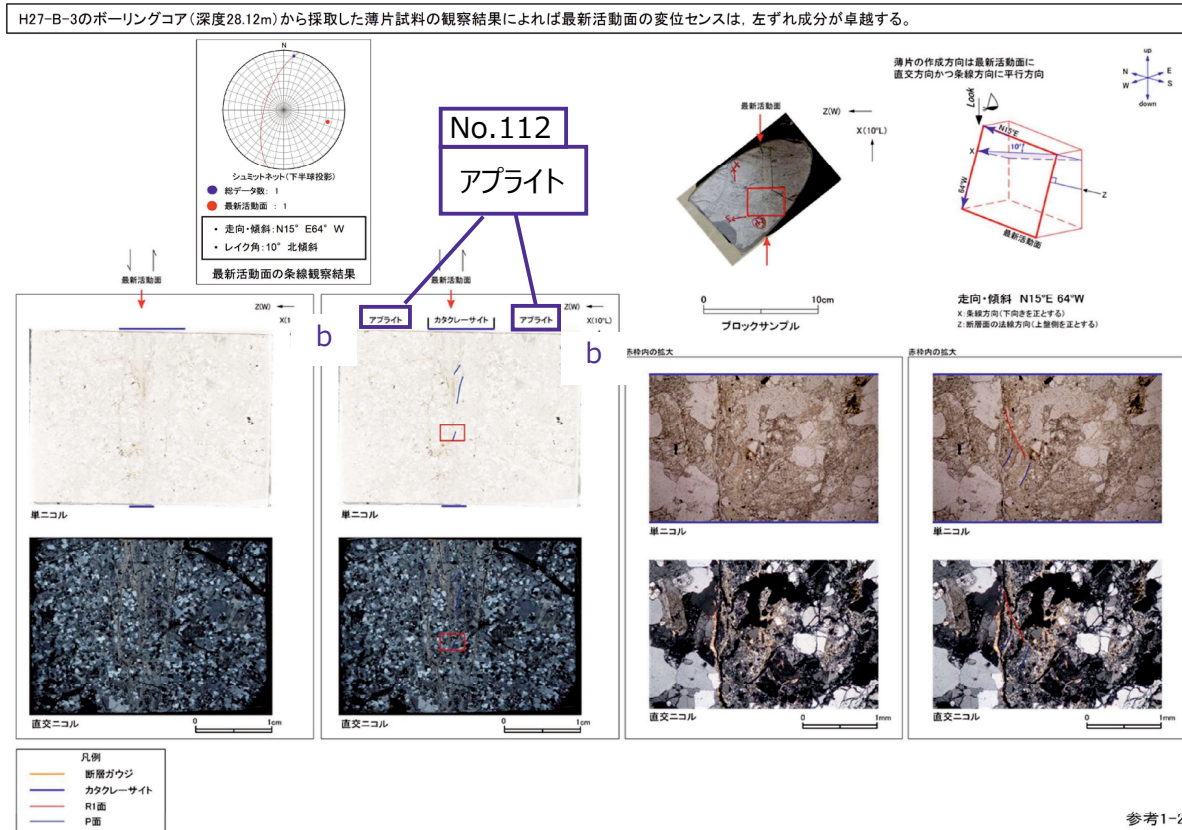
従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料1
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料1 薄片観察結果
参考1-243頁

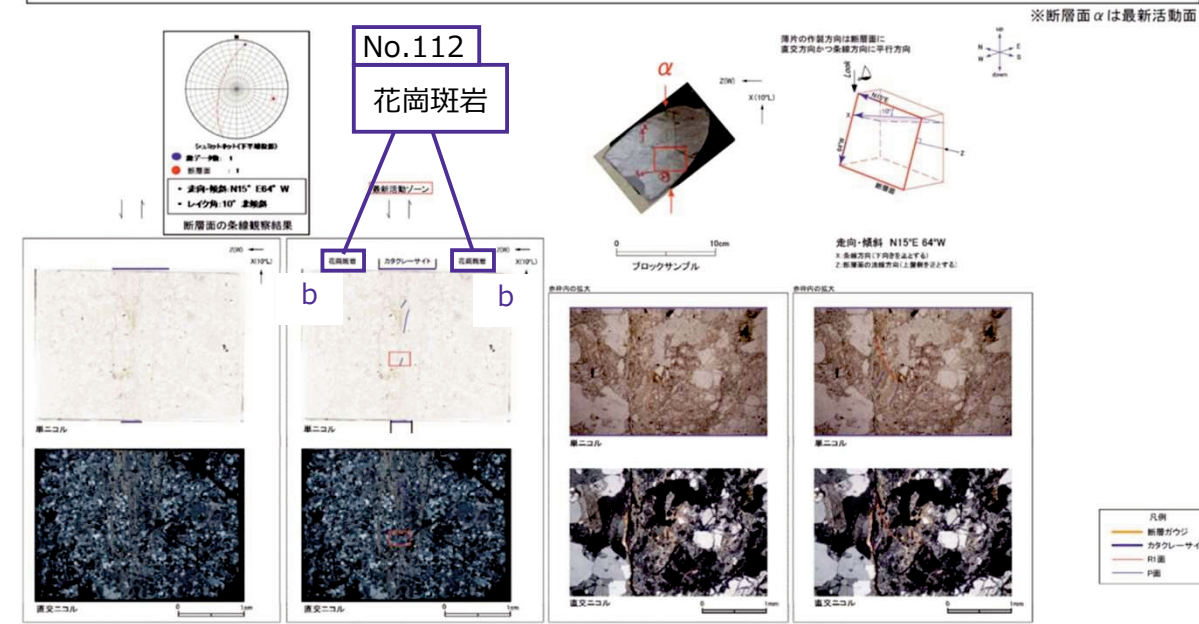
第833回審査会合 机上配布資料1(追記 (青太枠))

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-3 深度28.12m)



H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 > (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
 > (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 > (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

6-7-1162



第7.4.4.325図(3) 破碎部性状 H27-B-3 深度28.12~28.14m (変位センス、薄片観察による断層岩区分(1/2))

H27-B-3 深度28.12~28.14m 破碎幅 (No.111) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に破碎幅を2.0cmと記載していたが、以下のことから、1.0cmが正しい値であるため、2.0cmから1.0cmに変更した。
- コアの再観察の結果、破碎幅は1.0cmであった。
- 従前提示していたデータでは、破碎幅を「2.0cm」としていたが、従前の作業プロセスでは今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため、根拠がトレースできなかった。

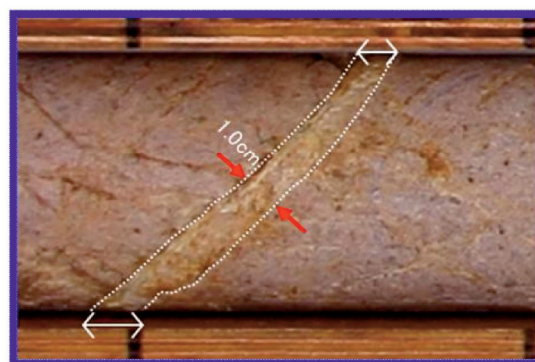
破碎幅算出資料 (H27-B-3 深度28.12~28.14m)

・実測した破碎幅は1.0cmである。

コア写真



凡例
 ← → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0 5 cm

凡例
 ↔ : 変更後の破碎幅

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・明瞭なせん断構造・変形構造を有に変更 (No.113)

【理由】コアの再観察の結果，最新活動面に沿った断層ガウジに灰白色と灰黄褐色の層状構造が認められるため。

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 明瞭なせん断構造・変形構造を「有」に変更 (No.113)

H27-B-3 深度29.10~29.12m 明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (No.113) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-190頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

(No.111で説明) (No.109で説明)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(18/19)

Table with 15 rows and multiple columns showing geological data and photographs of rock samples. Includes callouts for No.113 (無) and No.1126-追29.

(No.1126-追30で説明)

凡例
最新活動面 ←→ 破砕帯
カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す

【説明】
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯
崩壊した粘土状破砕帯、崩壊した砂状破砕帯、崩壊した角礫状破砕帯
の合計の幅とし、破砕帯の方向は矢印から矢の頭に誘導した。

参考2-190

(No.111で説明) (No.109で説明)

No.113

Table with 15 rows and multiple columns showing geological data and photographs of rock samples. Includes callouts for No.113 (有) and No.1126-追29.

(No.1126-追29で説明)

(No.1126-追30で説明)

凡例
最新活動面 ←→ 破砕帯
カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す

※1 新層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
※3 量測しない成分については「-」を記載(面成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
(-)は記入外)、データを取得していない箇所

第7.4.4.419図 (1) 破砕帯性状一覧 (H27-B-3)

H27-B-3 深度29.10~29.12m 明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (No.113) の変更

- 従前提示していたデータでは性状一覧表に明瞭なせん断構造・変形構造の有無を「無」と記載していたが、以下のことから、明瞭なせん断構造・変形構造の有無を「無」から「有」に変更した。
- 当初のコア観察において、粘土状部の色調を灰白色と灰黄褐色の縞状模様と記載している。コアの再観察の結果においても、最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色、灰黄褐色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」である。
- 従前提示していたデータで明瞭なせん断構造・変形構造を「無」としていたのは、誤認であると推定される。

明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (H27-B-3 深度29.10~29.12m)

最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色と灰黄褐色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真



該当箇所のコア観察カード

29.10~29.12m : 4c-1
 上部40cm: 連続的、下部40cm: 非連続、チリウム石英
 を含む砂質 (5%以下) 含む凝灰質中固結状粘土 (5%以下)
 色調は、上部側: 灰白 (10R 9/5)、中央: 灰黄褐 (10YR 4/6)、下部側:
 灰黄褐 (10YR 5/6) の縞状模様を呈し、厚さ 5~10mm

粘土の色調及び縞状模様の記載

凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲 ※: 写真上は白色で記載
 最新活動面



青枠部拡大

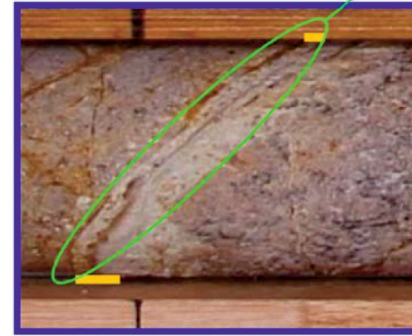


青枠部拡大

灰白色部

灰黄褐色部

灰黄褐色部



青枠部拡大

層状構造

凡例
 断層ガウジ

0 5 cm

H27-B-3 深度42.85~42.91m 全景写真の記載 (No.114) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

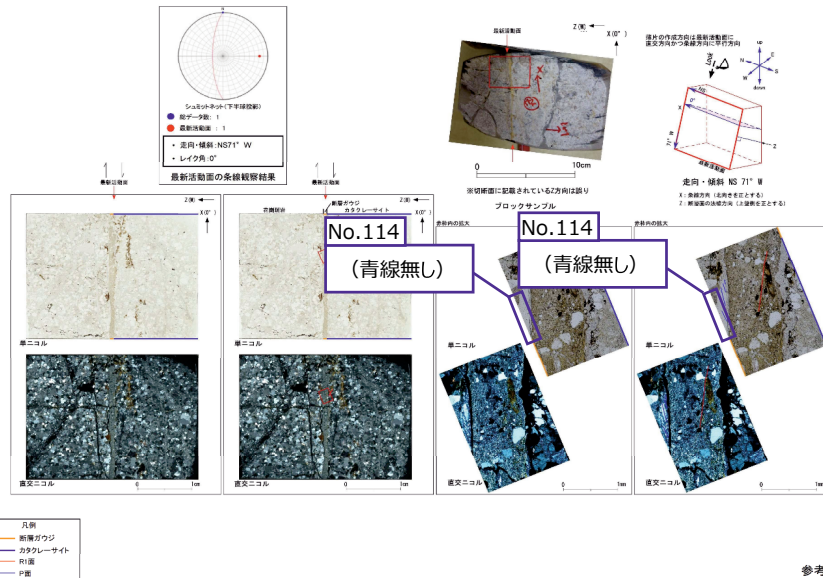
参考資料1 薄片観察結果

参考1-162頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追加(青太枠)

H-2破砕帯 薄片試料観察(H27-B-3 深度42.85m)

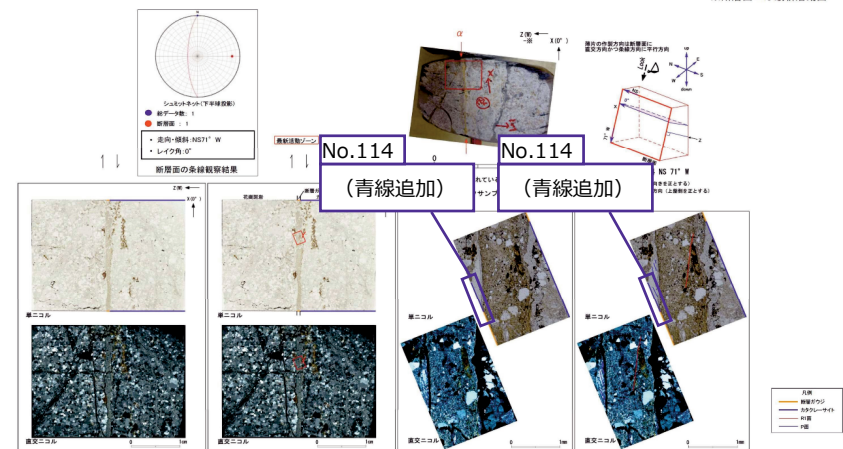
H27-B-3のボーリングコア(深度42.85m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。



・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーン以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 > 岩片は少ない。
 > (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面αは最新活動面

6-7-1172



第7.4.4.327図(3) 破砕部性状 H27-B-3 深度42.85~42.91m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/2))

H27-B-3 深度56.69~56.72m 薄片作製位置を示す赤枠位置 (No.115) の修正、
最新活動面を示す矢印の位置 (No.116) の修正、全景写真の記載 (No.117) の修正

従前

見直し後

第 8 3 3 回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2 号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

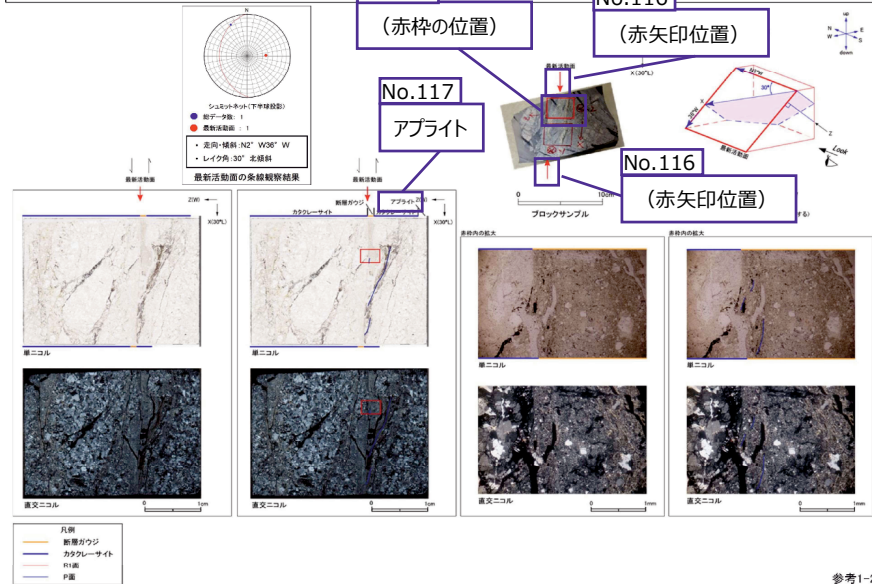
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-245頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追加(青太枠)

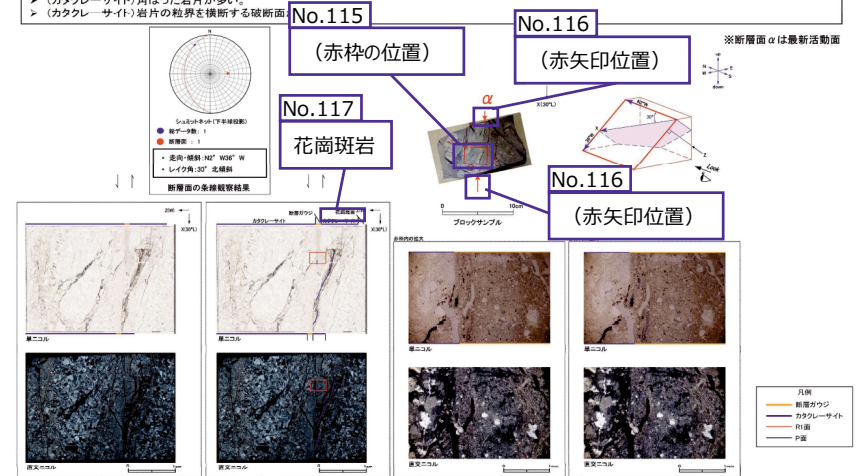
非モデル化破砕部 薄片試料観察 (H27-B-3 深度56.72m)

H27-B-3のボーリングコア(深度56.72m)から採取した薄片試料の観察結果



・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
・(断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
・(断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
・岩片は少ない。
・(カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
・(カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面

6-7-1177



第7.4.4.328図 (3) 破砕部性状 H27-B-3 深度56.69~56.72m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/2))

H27-B-3 深度58.89~58.98m 全景写真の記載 (No.118) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

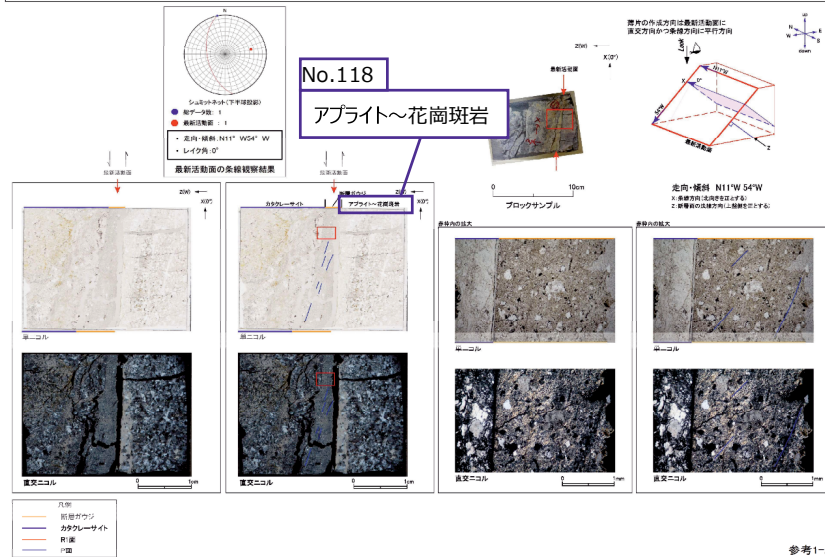
参考資料1 薄片観察結果

参考1-246頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破砕部 薄片試料観察 (H27-B-3 深度58.98m)

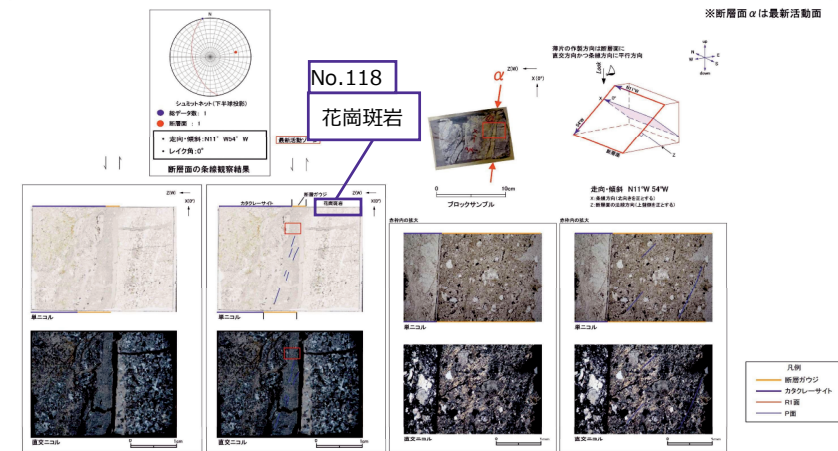
H27-B-3のボーリングコア(深度58.98m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。



参考1-246

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 > 岩片は少ない。
 > (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 > (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

6-7-1182



第7.4.4.329図(3) 破砕部性状 H27-B-3 深度58.89~58.98m (変位センス、薄片観察による断層岩区分(1/3))

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・走向・傾斜をN42E14Wに変更 (No.119)

【理由】再観察の結果、似た姿勢の割れ目から最新活動面の走向・傾斜を復元

・条線方向を7Rに変更 (No.120)

【理由】走向・傾斜の変更 (No.119) により、基準方位が変わることに伴う変更

・変位センスを右ずれセンスに変更 (No.121)

【理由】走向・傾斜 (No.119) 及び条線方向 (No.120) の変更に伴う変更

・Z方向の記載を誤っていたためブロックサンプル写真、薄片試料写真を修正 (No.123)

・薄片試料写真をカタクレーサイトに修正 (No.124)

【断層連続性評価への影響】あり

・破碎帯名を非モデル化に見直し (No.122で説明)

【理由】走向・傾斜 (No.119) 、条線方向 (No.120) 、変位センス (No.121) の変更に伴い、破碎部の連続性を再評価した結果による

2. 変更箇所

a 走向・傾斜を「N42E14W」に変更 (No.119)

b 条線方向を「7R」に変更 (No.120)

c 変位センスを「- 右」に変更 (No.121)

d 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更 (No.119,120)

e 変位センスの記載を「右ずれ成分が卓越する」に変更 (No.121)

f ブロックサンプル写真及び薄片試料写真を左右反転する修正 (No.123)

g ブロックサンプル写真内のZ方向が誤りであるとの補足を追記 (No.123)

h 薄片試料写真を「カタクレーサイト」に修正 (No.124)

H27-B-3 深度76.59~76.89m 最新活動面の走向・傾斜 (No.119) を再観察結果に基づき変更し、それに伴い条線方向 (No.120)、変位センス (No.121) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-159頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

